

事業名	佐倉学体験講座 竹炭づくり体験						
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・	成人教育	・	団体育成
日程	令和3年11月25・26日	講師	中村 恵夫	参加費	700円（材料費）		
対象者	市内在住・在勤の成人	参加者数 (延べ)	20名	募集方法	こうほう佐倉10月15日号 弥富公民館だより10月号		
趣旨	弥富地区において昔より伝わる竹炭づくりを体験することにより、弥富地区の自然と伝統的な農村の生活について理解を深めるとともに、竹炭づくりの楽しさと竹炭の現在の生活への活用を学ぶ。						
内容	弥富地区では江戸時代から炭の製造が盛んで、クヌギやナラ、マツを原料とした「佐倉炭」というブランド炭ができるほど良質な炭の産地であったこと、また、炭を燃料として使用していた時代は、自宅用の炭は大部分が自分で焼いた炭を利用し、炭づくりが副業ともなっていたことを説明し、その後、講師所有の炭窯で材料の調達が容易な竹の炭焼きを体験、翌日完成した竹炭と竹酢液を参加者で分け合い、普段の生活で活用する。						
工夫	例年であれば、時間短縮のためあらかじめ炭焼きを済ませておき、取り出し→窯入れ→火入れ→観察と通常と異なる工程で実施していたが、日程を2日間取ることにより、窯入れ→火入れ→観察→（翌日）取り出しと、実際の工程に即した事業を行った。なお、例年は午前・午後の1日であった事業を午前だけの2日間としたことは、感染症予防対策として、従前の昼食会を開催しないこととする意図もあった。						
成果	参加者それぞれが下駄箱の消臭、インテリア、土壌改良など竹炭の活用方法のアイデアを話し合うことができた。また、炭窯の仕組みや作り方など、積極的に講師から学んでいた。この講座に市民カレッジから竹林の保全活動を始めた団体の方が参加され、今後の活動へのサポートができた。						
課題	参加者10人に対し炭窯が1つのため、交代で各工程の作業を体験してもらうのが理想だが、作業の独占が発生してしまっていたり、講師の指示と異なることをしたりしていたため、担当による軌道修正の方法を良く考える必要がある。休暇を取って講座に参加された方がいらしたが、この事業に限らず、土日や夜間に事業を行うなど、若い世代が参加しやすい事業設定を検討する必要がある。						

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館が行う必要があるか。</li> <li>市民や利用者のニーズに合っているか。</li> <li>目的や役割が薄れていないか。</li> <li>事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。</li> </ul>
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の優先度は高いか。</li> </ul>
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者に情報は流れているか。</li> <li>受益者負担はあるか(実費・教材費)</li> </ul>
有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>期待通りの成果が得られているか。</li> <li>さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。</li> <li>市民の満足度は高いか。</li> </ul>
効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の効率性はどうか。</li> <li>事業運営に学習者が参画しているか。</li> <li>他事業との統合は考えられるか。</li> </ul>
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記		

《凡例》

良い ← A B C D → 良くない

《判定例》

A	A	A	A	A
A	A	B	A	A
A	A	B	A	B

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------



令和3年度 成人教育事業

佐倉学体験講座  
「竹炭づくり体験」

令和3年11月25日(木)～26日(金)

弥富公民館

# 開設趣旨

## 【事業を取り巻く状況】

- 江戸時代から炭の製造が盛んで、「佐倉炭」というブランドで良質な炭の産地であった。
- 炭を燃料として使用していた時代は、自宅用の炭は大部分が自分で焼いて使用しており、副業としても炭の生産をしていた。



## 【事業の目的】

- 弥富地区において昔より伝わる風習を体験することにより、弥富地区の自然と伝統について理解を深める。
- 地域人材の活用・育成を図る。

# 事業概要

**対象** 佐倉市在住・在勤の成人 10名  
(20名申込みのため抽選 10名参加)

**11月25日 9時30分～12時30分**

- ① 窯入れ
- ② 火入れ
- ③ 観察

**11月26日 9時30分～10時30分**

- ④ 取り出し

# ① 窯入れ

- 乾燥させた竹を窯の天井から入れる
- 窯の天井を鉄板と砂で密閉する



## ②火入れ

- 薪に点火し、窯の焚口で燃やす
- 火が消えないように薪を足し、空気を送る



### ③ 観察

- 煙の様子や竹酢液が抽出される場所を観察する
- 初日はここで終了



## ④取り出し

- 窯から炭を取り出す
- できた竹炭・竹酢液を参加者で分け合う





# 今回の成果

- 参加者それぞれが下駄箱の消臭、インテリア、土壌改良など竹炭の活用方法のアイデアを話し合うことができた。
- 炭窯の仕組みや作り方など、積極的に講師から学んでいた。
- 市民カレッジから竹林の保全活動を始めた団体の方が参加されていたため、今後の活動へのサポートができた。

# 今後の課題

- 作業分担や、講師の指示と異なる作業をする参加者への軌道修正を良く考える必要がある
- 今回仕事を休んで来た参加者がいたが、働いている世代の参加を増やすために、土日にも事業を実施することも検討する必要がある。